

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	栗の里公園等管理事業			
予算科目	7 款 1 項 5 目			
総合計画での位置付け	産業の振興～もりもり元気なごづくり～ 観光の振興			
所管課情報	担当課: 経済雇用戦略課		電話番号(内線): 572	
記入者情報	所属長: 市野 孝敏		担当責任者: 平井 隆雄	
事業の性格	内部管理事務			
実施期間	【開始年度】平成 17 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	一般利用者(余暇・観光・自然志向者)			
根拠法令等	栗の里公園条例			
事業の目的	特産品「栗」の振興と、都市住民との交流、地域住民の憩いとコミュニティーの拠点として管理運営する。			
事業の内容	栗の里公園内施設の管理運営及び維持管理			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	市内観光施設との連携や観光パンフレットの活用によるPR活動に努め、利用者増につなげる。			
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項 目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	5,930	7,412	3,878	7,388
	人件費	80	80	20	80
	合計	0	7,492	3,898	7,468
人件費 内訳	人工数	0.01	0.01	0.01	0.01
	人件費単価	7,954	8,042	4,021	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	79	80	20	80
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	6,010	7,492	3,898	7,468

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
管理費執行状況	千円	5930	7412	3083	7388

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
	7,083	7,000	7,000	7,000	7,000	35,083

成果指標				
成果指標	管理費等執行状況			
指標設定の考え方	利用効果については施設利用者数(入込客数等)によるが、管理運営については指定管理者制度によるところが大半を占めるため、予算執行状況とした。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	6078	7412	7083	7000
実績	5930	7388	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	2	D
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	市内観光施設との連携や観光パンフレットの活用によるPR活動に努め、利用者増につなげていく。施設設備の老朽化が進んでいるため、計画的に修繕を実施していく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設の老朽化に対する計画的な改修と観光誘客の入込が増加するよう、新たな事業展開に伴う情報発信や効果的な観光イベントの見直しが必要と思われる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価段階で低評価となっていることから、行政評価委員会に諮る。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市がもっと積極的に関わって、活用できるようにしていただきたい。 ・旧中山の施設が問題になっているように思う。指定管理者の責任でもないと思う。ただ施設がある以上、いかに有効に活用していくか、行政と地域住民も一体になって考えないと、支援は難しい。 ・唯一の望みは中山スマートインターチェンジだと思う。中山地区のみならず内子町などと連携を取らないといけない。 ・クラフトの里と栗の里を混同するくらい、幾つもあり過ぎるのではないか。両方生かすのは厳しいと思う。 ・施設全体では以前に比べいろいろと手を加えており、イベントもやっている。頑張っていると思う。 ・スポットの集約という意見もあるが、逆にいろいろあるスポットを利用する方法もある。要はやり方だと思う。 ・あのスポットは残していただきたいと思う。 ・一番のウリである栗に対する研究開発と、それをどう売るかというセールスを開発しないとイケない。今までが地味過ぎて情報に埋没している。誰が見ても理解できる形で総合戦略を立て栗を売らないといけない。もったいないと思う。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>中山スマートインターチェンジ開通、道の駅化構想と連携して事業を進めること。</p>